

厚高同窓会報

第 37 号 平成15年 8月 9日

旧制中学卒業者 3,915名 計 26,071名

新制高校卒業者 22,156名

発行

神奈川県立厚木高等学校同窓会事務局

TEL 046 (221) 4078~9

FAX 046 (222) 8243

印刷所

厚木市妻田南2-4-32 (有)厚木タイプ印刷

TEL 046 (222) 3027



マラソン大会

『吾道一以貫之』

吾が道一以て之を貫く

厚木高等学校同窓会々長

山田 恒雄

(中二十七回)



今回百周年に奔走された石塚校長先生の後任として平塚市大原の地より八木猛校長を迎えるに当り、私は偶然とは云い乍ら人の世の量かり知れない宿縁に呆然としたのである。

想えば昨年二月の初め凍てつくような寒い日に、前平塚市長の故石川京一君の葬儀に出席した時の事である。葬儀は肅々と進み、正副葬儀委員長より丁寧な弔辞が捧げられたのであるが、その何れもが生前の石川市政の功績として一様に国有地払下げの問題が取り上げられたのであるが、その瞬間、私は彼の遺影の傍らに「吾道一以貫之」の色紙が飾られているのを目にとめた。それは明かに名筆で知られた彼自身の筆跡であることに気付き、グッと胸にくるものを禁じ得なかったのである。

孔子の実践した「生涯を貫く道」「一貫した道」とは、曾子の説明を俟つまでもなくそれは「忠恕」即ち「真心を込めた思い遣り」「仁」の一語につきる。若い石川氏が市政をあづかるようになってからの最大の悩みは、市の発展を阻害する大原の地を含む膨大な海軍火薬廠跡地の始末であったろう。思い余った彼は一人の秘書を伴って一日、天理ビル私の許へやって来た。同窓会々長の茅誠司先生への仲介を求めたためであった。

茅先生の政治嫌いを知り抜いていた私は、一度は断つたものの、彼の真情に打たれ、ご迷惑とは知り乍ら彼を伴って茅先生の門を敲いたのである。時に茅先生は既に払下げ関係の委員長を退かれた直後ではあったが、二人の想いは通じ、程なくしてこの膨大な国有地は、あろう事かその全敷地が、しかも無償で同市に払下げられたのである。しかし、考えて見ればそれはこの火薬廠があったが為に、空襲で全国最大の被

害を蒙った平塚市民に対する日本政府のせめてもの償いであり、平塚市政に対する「思い遣り」の気持ちに他ならなかったのである。

それにしても、この同窓の想い

着任のご挨拶

学校長 八木 猛



本年四月、大原高校より転任して参りました。厚木高校の県下における評判は承知しているとは言え、これまでの勤務地区とは違い、また生活の場としても縁は遠かったものですから何かにつけ不安や戸惑いを覚えました。着任して間もなく、石塚前校長先生の案内で山田会長にご挨拶にお伺いしました。お忙しい中を快く迎えていただき、予定の時間を超えてお話をさせていただきました。穏やかな笑顔と味わいのあるお話りに厚木高校が身近に感じられるようになりまして。そして厚木高校の職員としての新たな決意と元気をいただいで参りました。その後、同窓会の支部会等におきましても、多くの会員の皆様から歓迎のお言葉や激励のお言葉をたくさんいただきました。ありがたく思うと同時に、同窓生の皆さんの学校に対する誇りと期待に對しまして責任の重さを改めて感じたところです。皆様のご期待にこたえるよう微力ではございますが精一杯努めさせていただきます。

の寵もった大原の地より八木新校長をお迎えしようとは。同窓会員一同その活躍を心から期待するものである。

本校の特色の第一に県内屈指の進学実績を誇ってきた事があげられます。それを踏まえて県の指定事業である学力向上実践推進事業等を通した社会のリーダーの育成、土・日曜日や長期休業中の活用に取り組んでまいります。また、PTAのご協力を得て将来を展望した職業人育成に資する相談制度・職業体験事業等の取り組みを進めてまいります。同窓会の皆様にもご協力をお願いすることも考えております。

本校の特色の第二に部活動、学校行事における活発な活動があげられます。先日行われました戸陵祭体育部門では各連合が連合長の統率のもとで、見事な競技ぶり・演技ぶりを見せてくれました。ご来場の保護者・同窓生・地域の方々の盛んな声援をいただき、大盛況でした。部活動におきましては土日をも含めて校内外で熱心に取り組んでおり、これまでの実績にも勝る益々の活躍が期待されます。今教育界は激動の時代のただ中にあります。各校での特色作り、

生徒減を見通した高等学校の再編事業、入学者選抜制度の改善、学区の見直し、また学校評議員制度、学校評価システム、人事評価システム等県立高校は県民の期待にこたえるべく切磋琢磨して変わることが必要な時代となっております。こうした全国的な教育改革の中で、本校は伝統ある進学校としてまた社会のリーダーの育成を目指して一層の改革を行って行く所存

厚木高校の二年間を振り返って

前校長 石塚 崇



創立百周年の年度もお陰様で成功裡に閉幕し、新しい年度が始まって既に四ヶ月が過ぎました。私も退職後の新しい生活によりやく慣れ、過去を振り返る多少のゆとりも生じてまいりました。百周年記念事業等で多大なご支援をいただきました同窓生の皆様をはじめ、学校づくりに粉骨砕身努力していただいた先生方、その他多くの人達に支えられた二年間であったと、改めて感謝の気持ちで蘇ってくる今日この頃です。

私が厚木高校に着任しましたのは、百周年を翌年に控えた平成十三年の四月でした。折しも教育改革真っ直中で、各都道府県が競って特色ある高校づくりに取り組み、高大連携や進学重点校の指定等、公立高校の復権をかけた動きが目

です。昨年創立百周年を迎え、百年の歩みをたどりその成果を確認しました。そして本年は二百周年へ向かってその第一歩を踏み出しました。本校の伝統や創立の理念を踏まえ、新しい時代の要請にこたえる学校づくりを進めて参ります。同窓生皆様方の力強いご支援・ご協力を今後ともよろしくお願い申しあげます。

立てきていました。また、昭和五十六年の学習指導要領以来続いてきた「ゆとり教育路線」に対し、学力低下を危惧する声が急激に高まり、「ゆとり」と「学力育成」との論議が沸騰し、文部科学省は平成十四年一月には「学びのすすめ」のアピールを出すに至りました。この問題は、教育基本法の問題とともに、今も論議が続いていることは皆様ご承知の通りです。こうした明治維新と戦後に続く第三の教育改革とも言われる大きなうねりが、神奈川県にも押し寄せ、県立高校改革が実施に移され、高校入学者選抜制度や学区のあり方の検討が急ピッチで進む激動の二年間を、私は厚木高校に奉職させていただきました。

困難の中にチャンスあり、激動の今こそ、厚木高校が飛躍する千載一遇の好機と捉え、教育活動の抜本的見直しに取り組みました。特に本校百周年は、不易と流行を見極め、伝統・校風をしっかりと継承する一方で、本校の将来像を模索する絶好の機会となりました。臥竜鳳雛の人材を育て、二十一世紀を担う各分野のリーダーとなる人材を輩出する、これを本校の目指すべき方向とし、そのための教育活動を積極的に展開することにしました。

時代の早い流れに呼応するため、手続きや前例に拘ることなく、良かれと思うことは、直ぐにも実行に移すことにしました。学校一丸となった取り組みが理想であることは言をまたないことですが、社会の風が吹き込みにくい職員室ゆえ、職員からの反発は勿論覚悟の上でした。案の定、学校運営は多事多難に直面することになりましたが「分け登る麓の道は多かれど同じ高嶺の月を見るかな」この古歌の如く、生徒や学校を思う気持ちには、教員は皆同じであること信じて邁進しました。目標に向かって不撓不屈の気持ちで突き進むことが出来たのは、偏に同窓生やPTAの皆様のご支援のお陰です。

二間は瞬間に過ぎました。力及ばず成し得なかったことも多々あり、ご支援いただいた皆様には申し訳ないと思っております。百周年の年度も終わりに近づくと

つれ、日暮れて道遠しといった焦燥の日々を過ごすこととなりました。幸い、後任に八木校長をお迎えし、これまでの改革路線を継承していただいていることは心強い限りです。同窓生の皆様には、これまでにも増して母校へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

部活の再生を希って

中丸 英一 (高二回)

偶然にも自身の古希と一緒に迎えた母校、厚木高校の百周年イヤーも盛況裡に終わり、改めて名門厚木高校の一員であることの誇りを新たにした次第で、実行委員皆様のご努力に心から感謝いたしております。

さて、宴のあとに淋しさはつきものですが、陸上競技部をはじめ伝統をしっかりと受け継いで活動する運動部が多いなかで、今日まで私の人生を支えてきた原点とも言えるハンドボール部の消滅は、一抹の淋しさを禁じ得ません。

思えば、大谷弘先生の赴任を機に藤原義明君を主将として創部されたハンドボール部は、初出場の県大会で強豪三浦高校と互角の熱戦を演じて注目を集め、佐々木孝男君、亀井英一君等に引き継がれて常に県内八強に名を連ねる活躍が続きました。

卒業後は明治大学に進み、二

今、厚木高校は、次の百年に向かって新たな歴史を刻み始めました。百周年の節目に皆様と一緒に播いた種子がすくすくと育ち、大きく花開くことを願うとともに、お世話になりました皆様に重ねて衷心より感謝申し上げます。

十九年には主将として大学リーグ戦を戦いましたが、二年遅れて鈴木実君が入部し、私の果たせなかった大学リーグの優勝を見事手にしています。

私は現在も大学OB会、県及び市協会の役員として後進の育成に携わっておりますが、その原点を失った淋しさは言い難いものがあり、何時の日か復活することを秘かに希っております。

かつて母校の部活動に情熱を燃やしなが、長い歴史の中で私同様の思いを抱いているOB諸兄も多いと思われませんが、次の百年に向けて部活動の更なる隆盛のために、母校を巣立って全国レベルの活躍をされたOBや、県・市等の役員として後進の育成指導に尽力された方々をメンバーとする、オリジナル運動部のOB会「戸陵スポーツクラブ」(仮称)を結成し、お互いの親睦を深めながら、末永く

現役各部の活動を側面から支援してゆく組織の立ち上げを提案したい、と思っておりますが如何なるのでしょうか。

同窓会の皆様への御礼

前厚木高校同窓会事務局総務
前百周年実行委員会総務
現県立大秦野高校国語科

大貫 育男 (高二一回)

四月一日をもちまして、九年前の母校勤務から、県立大秦野高校に転勤致しました。在職中は公私にわたり、心温まるご支援をいただき、母校同窓会事業および百周年事業の職責を果たす事ができました。同窓の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、百周年事業を振り返って、この事業が同窓会各支部会を中核に企画・運営されたということは特筆に値します。各地区に在住・在勤の同窓生が、上下の絆を縦糸とし、同期生の横糸と絡めて、重層的な事業となりました。

伊勢原戸陵会様。記念ゴルフ大会、音楽コンサート等々。出身地への甘えから、面倒を数多く押し付けましたが、いつも快く受け止めていただきました。

秦野支部会の藤野会長、各事業へいつもご参加くださいました。前会長の佐藤さん、私の亡父の思い出話が嬉しかったです。

座間戸陵会様。開催式・閉催式

何はともあれ、二万五千同窓の結束を強固にした百周年のパワーを、母校の更なる発展につなげるよう頑張ってください。



の記念コンサートに、ハーモニイホールをお借りし、お陰様で盛大に挙行することができました。

相模原両青会様および市役所の同窓生の皆様、記念美術作家展「石井清」展を物心ともに盛り上げていただきました。

平塚支部会様。以前の総会で、熱川東映ホテルに井上元校長をお連れしたのは良い思い出です。日帰りで浴衣に着替え、また平服に着替えて、吞まずに車で帰りました。

横浜会様。格調高く、また、寛大に若輩の私を受け入れて下さいました。校歌のリードもさせてくださいました。

津久井支部会様。少数精鋭の和気藹々。残雪の道を大貫睦男先生と行ったのは、皆さんが暖かかったからです。大正館は素敵でした。

愛川戸陵会様。お陰様で、草刈機の使い方を覚えました。同窓林の管理保全、今後とも宜しくお願い致します。草刈に参上します。

川崎・多摩・麻生戸陵会様。会長の白井さんの告別式に参加致しました。是非、会員の皆様のご奮闘で会を盛り上げて下さい。

綾瀬戸陵会様。再来年度には学区撤廃。全県一区の入学試験となる予定です。厚木生を過去のよう到大勢送りこんでください。

海老名戸陵会様。百周年記念パッジ・タイピンの多数のお買い上げ、ありがとうございます。海老名市は今注目の地域です。

三浦半島戸陵会様。一番遠い所ですが、澤田市長さんを始め、皆様の笑顔に誘われました。

藤沢・御所見戸陵会様。「伊勢・源氏」の講演もさせて頂いていただきました。地引網大会は永遠に不滅です。来年も行きます。

大和戸陵会様。若手の同窓が大勢いる楽しい会です。三月総会で事業のまとめの講演させて頂いていただきました。あの時は転勤が決まっていたので複雑な心境でした。

厚木連合戸陵会様。真打登場を心待ちにしていたのは全ての同窓でしょう。立ち上げに御尽力された皆様に感謝致します。記念祝賀会は今でも話題に上ります。

以上十五支部会をはじめ、職場の同窓会、OB会、同期会、現旧職員、PTA等々によって織り成され、二十に及ぶ百周年事業は展開されたのです。

続きはまたの機会に……。ありがとうございます。

創立百周年記念事業

募金者ご芳名(追加分)

去る三月三十日の「百周年イヤー閉催式」をもちまして、百周年記念事業はすべて終了いたしました。各方面より多大なる御寄付をいただき誠にありがとうございました。おかげをもちまして募金総額も七千万円に達し、すべての記念事業を円滑に行うことが出来ました。詳細は「厚木高校創立百周年記念事業実行委員会報第三号」でご報告させて頂きましたが、掲載できませんでした三月一日以降の募金者を紹介させていただきます。

同窓会支部・会長名・連絡先一覧

- 伊勢原戸陵会 会長 近藤 俊二 (高6)
☎259-1131 伊勢原市伊勢原1-15-24 ☎0463-95-4843
- 秦野支部会 会長 藤野 誠 (中3 4)
☎257-0035 秦野市本町3-10-1 ☎0463-81-0419
- 座間戸陵会 会長 一杉 好人 (中3 4)
☎228-0024 座間市入谷3-6384 ☎046-251-0469
- 相模原両青会 会長 伊従 博 (中2 1)
☎222-0011 横浜市港北区菊名5-12-43-207 ☎045-402-4457
- 平塚支部会 会長 沖津 毅夫 (高2)
☎254-0012 平塚市大神2760 ☎0463-55-0682
- 横浜会 事務局長 矢部 満雄 (高1 0)
☎220-0013 横浜市港北区錦が丘30-7 ☎045-431-4208
- 津久井支部会 支部長 佐藤 弘 (中3 5)
☎220-0111 城山町川尻1661 ☎042-783-1183
- 愛川戸陵会 会長 徳岡 忠行 (中3 9)
☎243-0307 愛川町半原4223 ☎046-281-0260
- 川崎多摩麻生戸陵会幹事長 小金 悦夫 (中3 6)
☎214-0033 川崎市多摩区生田6-2-20 ☎044-966-7174
- 綾瀬戸陵会 会長 渋谷 芳郎 (中3 9)
☎252-1124 綾瀬市吉岡1781 ☎0467-78-0642
- 海老名戸陵会 会長 蛭川洋一郎 (高6)
☎243-0424 海老名市社家3677 ☎046-231-0915
- 三浦半島戸陵会 会長 今井 武志 (中3 6)
☎249-0007 逗子市新宿3-1-6 ☎0468-71-3355
- 御所見戸陵会 会長 内野 樹美 (高1 1)
☎252-0826 藤沢市宮原1468 ☎0466-48-1019
- 大和戸陵会 会長 座間 茂俊 (高2)
☎242-0007 大和市中央林間2-8-3 ☎046-274-3520
- 厚木連合戸陵会 会長 小澤 澄男 (高3)
☎243-0041 厚木市緑ヶ丘2-9-6 ☎046-223-3332

- 大塚 政弘 (高25・1万)
- 志村 智 (高34・1万)
- 奥畑 啓之 (高41・1万)
- 漆野 篤 (職員・5千)

事務局便り

事務局スタッフ十一名に

尚、記念募金に応募下さいました方々には、委員会より記念品をお送りしておりますが、転居・住居表示の変更等により未受領の向きがございましたら、事務局にご一報ください。(また、百周年記念誌「戸陵百年の歩み」をご予約された方で未受領の方も同様をお願いいたします。)

鈴木 敬 (中35・1万)
倉橋 宏 (高4・1万)
浜田 昭 (高7・2万)

本年四月の人事異動で、九年前にわたって事務局総務として活躍いただいた大貫育男先生(高21回)が大秦野高校に、同じく十一年間にわたって進路指導関係を中心に活躍いただいた岩本雅之先生(高28回)が伊勢原高校にそれぞれ転出となりました。両先生

には同窓会の各活動に大変ご尽力をいただきました。今後の活躍をお祈りいたします。

また、新たに福祉部生活保護課より渡辺卓先生(高31回)が着任されました。若さと活力に富む方を迎えることができましたことは、事務局として誠に心強い限りであります。先生は、「在学していた時とは大分雰囲気異なる印象があります。企画やその実現に向けての取り組みの主体性に、伝統が受け継がれていることが体育部門で感じられました。時代に流されることなく、自身の核となるものを見出し、たとえ不器用であっても粘り強く追求することを期待しています。」と感想を述べていらっしゃいました。今後の先生の活躍が大いに期待されるところで

編集後記

同窓会報第三十七号をお届け致します。ご多忙中にもかかわらず原稿依頼に快く応じて下さいました方々に、心よりお礼申し上げます。

今回はハンドボール部でご活躍された中丸英一氏、そして長年事務局総務をつとめられた大貫育男氏から原稿をお寄せいただきました。

以下に新しく加わっていただいた方を含めて、今年度の校内役員十一名をあげさせていただきます。今年度はこの十一名で頑張ってくださいと思いますので、よろしくお願いたします。

- ・大貫 睦男 (高17回・体育)
- ・志村 祐一 (高24回・数学)
- ・鈴野 康二 (高25回・数学)
- ・山重 裕次 (高28回・英語)
- ・山口 一郎 (高28回・音楽)
- ・霜島 士郎 (高28回・国語)
- ・小山 隆 (高31回・英語)
- ・渡辺 卓 (高31回・社会)
- ・熊坂 和也 (高32回・数学)

昨年は創立百周年を迎え、記念式典・祝賀会をはじめ、様々な記念事業が実施されました。各事業において同窓諸氏の厚いご支援、更には結びつきの強さを実感いたしました。新たな節目の年へ向けても、各支部会をはじめとした皆様、より一層のご協力をお願いいたします。

当会報を今後、より充実したものに育てていくために、各支部会の近況及び活動の様子や、各種OB会・同期会の様子、会員諸氏の身近なニュースやエッセイ等何でも結構ですので、事務局宛に原稿をお寄せ下さいれば幸いです。なお、編集の都合上、原稿は毎年五月末日頃までにお寄せ戴きたいと思っております。

最後になりましたが、会員諸兄弟のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。